

1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面		弱	強	指数
	側面1	側面2			
思索型	内閉性	社交意識が低い			65
	客観性	思考的思慮深い			67
活動型	身体性	機敏な・気軽な			49
	気分性	感情のまま行動			59
努力型	持続性	几帳面・忍耐力			45
	規則性	常識的・順法的			66
積極型	競争性	勝気な・積極的			48
	自尊心	気ぐらいが高い			53
自制型	慎重性	見通しをつける			50
	弱気さ	取越苦労・遠慮			71

■この人の中心性格は「自制・弱気さ」および「思索・客観性」であるが、「努力・規則性」や「思索・内閉性」といった側面も本人は意識している。

●「自制・弱気さ」及び「思索・客観性」の人のパーソナリティスケッチ  
 真面目であるが、イキイキしたところがあまりみられず、どちらかといえば内向的な人だといえる。大勢の仲間と騒ぐよりは、数少ない友人との時間を大切にしようだといえる。物事の考え方や発想は、大変素晴らしいものがあるのに、積極的に外に公表しようとする気持ちがないのか、それとも自分に自信が持てないためか、常に控え目に小さく表現しようとする。そのうえ、神経が細かく過敏な性格のため、人前では緊張しがちで、気持ちに余裕がなくなると不安定な行動をとることもある。また、失敗の不安を取り除くために綿密な計画をたてようとし、それが自分の能力以上のものとなると、気負いばかりが先走りする状態になってしまう。また、積極的に交友関係を持つとはしないが、気の許せる友人とは深い付き合いを形成している。自分も含めた物事の見方は、客観的にキチンと把握していて、その理解のしかたに間違いは少ない。人情的に深入りしないため冷淡な印象も与えるが、自分をよく内省していて、豊かな内面性の持ち主といえる。

●もう一方の性格特性  
 丹念さに欠け、気の向くままにものごとに取り組むことが多い。一つのことに對するこだわりがないためか、飽ぼく、いろいろな事が長続きしない。逆にいえば淡泊な人で、他の価値観に生きていて、あまりモノに執着しない人といえる。

2 ストレス耐性

ストレスの種類	弱	強	指数
対人ストレス耐性			34
目標ストレス耐性			44
繁忙ストレス耐性			40
拘束ストレス耐性			54
総合ストレス耐性			35

信頼係数



回答の正確さにやや欠けているが、全く信頼できないというほどの診断結果ではない。

3 基礎的な職場場面での社会性

診断項目	弱	強	指数
積極性			43
協調性			31
責任感			42
自己信頼性			31
指導性			41
共感性			36
感情安定性			27
従順性			58
自主性			44
モットー傾向			65

意見が衝突して、対人関係で問題を起こす可能性もある。

周りの状況によって、自分の意見や態度をかえてしまう。

仲間と協同で何かをするより、自分でできることを好む。多少の事でも理性を忘れて、気持ちの変化を行動に現す。

今の考えや生き方について、確信がつかめず悩んでいる。

4 どういうことに意欲・ヤル気をだすか

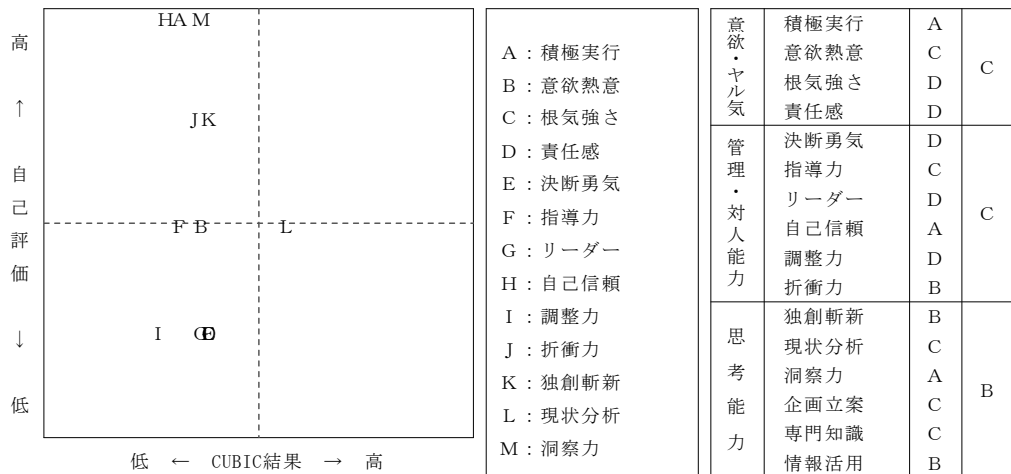
意欲の側面	弱	強	指数
達成 欲求			71
自律 欲求			49
求知 欲求			54
危機 耐性			42
勤労 意欲			42
顕示 欲求			41
支配 欲求			38
親和 欲求			37
秩序 欲求			58
物質的欲望			50

困難な目標にも努力し、常に自分を向上させようとする。

人の上に立ち、自分の管理下におくような事には消極的。世の中は実力と努力が大切で、友は能力のある人を選ぶ。

■この人は「より高い水準に自分をしたい」系統の欲求群が一番強く、ついで「自分らしい生活を送りたい」系統の欲求群となっている。逆に「対人関係が気になる」系統の欲求群には淡泊な反応である。

【自己認識】



【面談時のポイント】

自己信頼性が低く、自己評価の自己信頼が高い場合、自分を理解していないと思われる。  
 「適性検査の結果によると思ったほど自信を持っていないときがあると出ていましたが、自分ではどう思いますか。また、自信のある分野について話してください」

弱気さが高く、自己信頼性が低いときはどんな場面なら自信が持てるのか聞いてみる。  
 「適性検査には何事に対しても弱気になって考えこむことが多いとありますが、あなたにとって自信が持てるものは何でしょうか」

弱気さが高く、感情安定性が低い場合は些細なことに動揺しがちである。  
 「適性検査の結果には些細な出来事にもオロオロする事があると出ていましたが、自分ではどう思いますか。あなたにとってもっとも気がかりなことは何だと思いませんか」

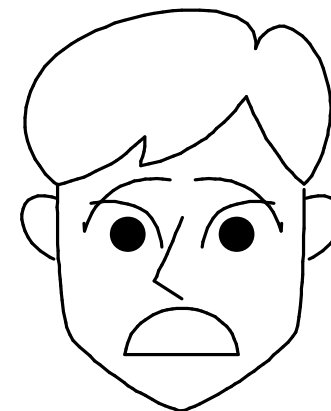
【どういう関心事・興味領域を持っているか】

興味の方向性	弱	強	指数
日常周辺事型	[Bar]		36
客観・科学型	[Bar]		60
社会・経済型	[Bar]		46
心理・情緒型	[Bar]		46
審美・芸術型	[Bar]		53

俗世間的な事に興味がない。しきたりなどは気にしない。  
 物事を分析的に考える、又はそのまま事実のみ捕らえる。

【心理要素イメージ】

眉の太さ: 指導性  
 瞳の直径: 達成欲求  
 鼻の高さ: 顕示欲求  
 顔の輪郭: 性格類型  
 眉の傾き: 従順性  
 目の傾き: 達成欲求+求知欲求  
 口の形状: 親和欲求+協調性  
 逆三角顔 = 思索型  
 エラ顔 = 積極型  
 細長顔 = 自制型  
 丸顔 = 活動型  
 角顔 = 努力型



【職務適性】

職務名	努力 ←	→ 最適		
営業 (持続タイプ)	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]
総務	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]
新規事業開発	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]
商品企画・開発	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]
研究開発	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]
品質管理	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]

【設定基準結果】

項目	基準	結果	差	判定結果
持続性	50以上	45	-5	-
協調性	50以上	31	-19	-
責任感	50以上	42	-8	-
勤労意欲	50以上	42	-8	-
対人ストレス耐性	50以上	34	-16	-
適合度				0%

1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	強	指数
思索型	内閉性：孤独な面があり内省するタイプ	[Progress bar]		65
	客観性：思慮深く冷静に判断するタイプ	[Progress bar]		67
活動型	身体性：活動的で機敏に動き回るタイプ	[Progress bar]		49
	気分性：気分で行動に変化があるタイプ	[Progress bar]		59
努力型	持続性：何事も粘り強くやり通すタイプ	[Progress bar]		45
	規則性：規則等を重視し行動するタイプ	[Progress bar]		66
積極型	競争性：競争心が強く積極的に動く傾向	[Progress bar]		48
	自尊心：自らのプライドを尊重する傾向	[Progress bar]		53
自制型	慎重性：慎重に見通しをつけて動く傾向	[Progress bar]		50
	弱気さ：考えすぎて遠慮がちになる傾向	[Progress bar]		71

■この人の中心性格は「自制・弱気さ」および「思索・客観性」であるが、「努力・規則性」や「思索・内閉性」といった側面も本人は意識している。

●「自制・弱気さ」及び「思索・客観性」の人のパーソナリティスケッチ

真面目でデリケートな性格の人で、大勢の仲間と騒ぐよりも数少ない友人との時間を大切にしようといえます。考え方や発想には大変すばらしいものがあるのに、積極的に外に公表しようとする気持がないためか、常に控えめで小さく表現しようとし、人前では緊張してしまうことが多く、たとえ完成したことで自信が持たなくなってしまうことがあるようです。余裕がないときには行動まで不安定になってしまったり、また失敗の不安を取り除こうとして綿密な計画を立てているうちに、それは能力以上のものとなり、かえって気負いばかりが先走りの状態になってしまいます。この繰り返しが多く、慢性的にイライラしがちです。また一方では外の出来事よりも自分の内面に心が向くほうで、充実した内面世界を持っています。誰とも親しく打ち解けるといわけにはいきませんが、考え方や価値観の合う友人とは深い付き合いを形成できます。情に流されないため、冷淡な印象を与えますが、自分をよく内省している人物です。

●もう一方の性格特性

興味がいろいろな方向に向くほうで、たとえ何かをしている最中でも、気が向けばそちらに移ってしまったり、ひとつのことに対するこだわりがないほうで、気分転換がうまいともいえます。何事にも淡泊な人であり、ものに対する執着もなく、自分なりの価値観に生きているといえます。

<この帳票の見方>

自己分析シートでは、性格、社会性、意欲の側面から診断しています。まず1ページ目では、あなたの中心性格を示し、次に日常的な生活場面での行動傾向を述べています。また、あなたの強み・弱みの把握ができるよう、具体的なアドバイスも記述されています。心理イメージに描かれている顔のイラストは、顔と人間の性格についてよく言われる言い回しをもとにあなたのモニターージュを作成しました。外見の顔ではなく、心の顔を絵で写し出そうとしたものです。2ページ目では、具体的な職場場面での対応力、自己評価と行動予測をグラフで示しています。対応力や行動予測は、1ページ目の診断結果より、あなたの行動傾向を予測したものです。あなたが思う本当の自分とのズレを感じる部分もあるかと思いますが、この診断結果によって、自分を見つめ直し、自己理解を深める機会ととらえて下さい。さらなる向上を目指すには、まず自分自身を知ることが大切です。自分を知り、さらなる向上を目指す手だてとして、ご活用下さい。

2 一般的な場面での社会性

社会性の側面	弱	強	指数
積極性・活発度	[Progress bar]		43
周囲との協調性	[Progress bar]		31
責任感・一貫性	[Progress bar]		42
自分への信頼度	[Progress bar]		31
指導・指示傾向	[Progress bar]		41
仲間との共感性	[Progress bar]		36
感情の安定度合	[Progress bar]		27
他者への従順性	[Progress bar]		58
自ら進んで実行	[Progress bar]		44
社会的自我確立	[Progress bar]		35

●「感情の安定度合」について

感情の安定度合とは、日常を含む精神面での落ち着きや、物事の処理、時間配分に対処する場合の感情リズムを表し、その時、場面での自己の波長がどの程度安定しているかを示しています。この傾向が低い場合は、  
▼多少のことで動揺してしまうことがあり、誰かがいると落ち着いて作業ができないこともある  
▼気分が落ち着かない、気持ちにムラがあるなど、その時、状況などによって調子が変わるといったことが考えられます。仕事内容や役割分担を正しく理解し、仮に突発的に何か起こった時や気分的にヤル気が低下した場合でも、なるべく自分の気持ちを安定させ、状況を整理しようとする努力が必要です。

●「自分への信頼度」について

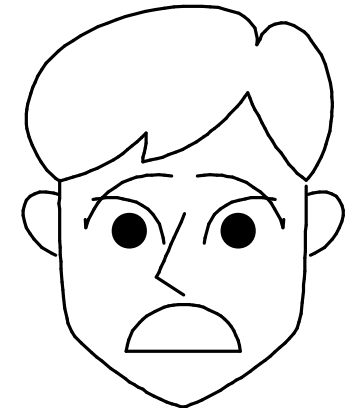
自分への信頼度とは、自己の性格的側面や能力を把握し、それに沿った行動ができるか否かの自覚度を表しています。自分への信用度ともいえ、過小、過大評価ともに望ましくありません。この傾向が低い場合は、  
▼自信が持てないため、出来ることでも出来ないと思いついてしまい行動が小さくまとまってしまう  
▼周りの人の意見や態度に動揺したり合わせたり、状況に変化が起きると戸惑うこともある  
といった行動が表に出やすくなります。自分に対する自信はすぐに身につくものではありませんが、まずは時間をかけてでも自己分析を慎重に行い、出来る事と出来ない事、得手不得手等を分別することが先決です。

3 心理イメージ

■心理イメージをイラストであらわすと

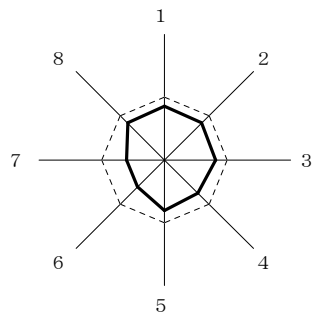
慎重な性格 → 細面の顔  
何でも素直に受け入れる → 眉が下がっている  
引っ張るよりもついていくほう → 細い眉  
ヤル気あふれている → 大きな瞳  
新しいことをとりいれたい → 目尻が上がっている  
目立ちたがり屋ではない → 普通の鼻  
人に合わせるのには苦手 → 口元が下がっている

となり、右のような顔ができあがります。



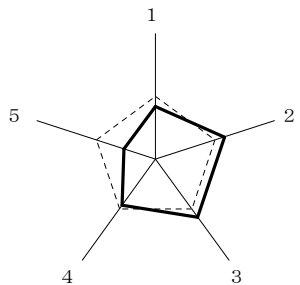
4 仕事場面での対応力

■何事にも積極的な姿勢で取り組む傾向



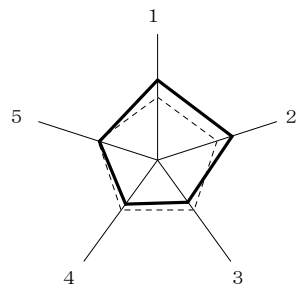
任せられればやるけれど、トラブルに巻き込まれたりすることへのためらいがあるようです。物事が順調に進んでいるときは自信があっても、何かひとつ引っかかると迷いが生じるのは、求められている役割の認識が甘いためと考えられます。状況を正確に把握し、周囲との関係を良好に保つと、解決策がわかってきます。

■ねばり強く最後までやろうとする傾向



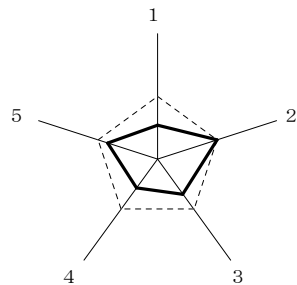
何でも中途半端に投げ出してしまいうわけではありませんが、興味なくなったりすると、やめてしまうことがあるようです。最後までがんばりぬくには、手がけていることへの関心や理解を深めていくことも大切です。継続的な努力のためにも、自分の立場を再確認し、果たすべき役割について考えてみるというでしょう。

■人に頼らず自分の力で成し遂げる傾向



新しいことに興味はあるものの、積極的に押し進めるまでにはならないようです。自分らしい興味があっても、周囲との調和や雰囲気と逆らってまではしたくないのでしょう。個人的な気持ちを抑えることも大切ですが、新しい環境においては自分から進んでいく必要があります。ときには脱日常を目指してみましよう。

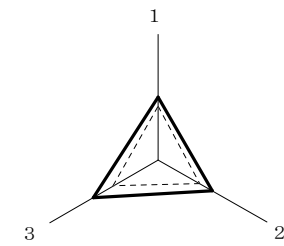
■強い意志を持ち前に進もうとする傾向



何かあると気持ちがしぼんだり、迷ったりするなどして、途中でくじけてしまうこともあるようです。たとえ時間がかかったとしても、自分なりの考えをまとめたものであれば、それほど簡単にあきらめなくなるはずですが。応援してくれる仲間を見つけるなど、続けていくための環境づくりから始めてみるというでしょう。

5 自己評価

■自己評価と行動予測の比較



■やる気の表出度について

自分にできることは、責任を持ってやり通そうとする姿勢が見られます。自分の能力を過信することなく、適度な緊張感を持って物事に取り組んでいるようです。ただし、少し難しいと思われるようなことには、無理な背伸びはしない様子がうかがえます。人によっては、あなたのそんな姿勢に物足りなさを感じているかもしれません。自分に任されている仕事の内容や目的を正しく理解できると、期待される役割もわかってきます。もっと、本来のあなたの持つ良さを生かせるようになるでしょう。

■管理・対人能力について

周りを引っ張っていくことに自信がなく、苦勞している場面が多いように思われます。困ったことやトラブルが発生したときには、あきらめてしまうのではなく、踏みとどまることが必要です。自分と異なるタイプと付き合うとき、相手の行動パターンが理解できず、不快な感情として受け止めることがあります。仕事場面では利益を共にする仲間としてとらえ、行動を受け入れていくといいでしょう。それにとまって業務がスムーズに進み、自信にもつながってくるはずです。

■思考能力の発揮について

専門的な知識や情報源などをたくさん持っているにも関わらず、それをうまく表現できずにいるようです。思っているよりも、自己表現が苦手なのかもしれません。企画力や知識などは自分なりの勉強でどんどん伸ばしていくことができますが、せつかくのスキルを発表できなくては宝のもちぐされとなります。自分に求められている役割や職務を再確認し、自分のアイデアをどんどん相手に伝えていきましょう。また、タイミングよく立案するために、周囲の状況をよく把握しておくことも大切です。